

令和 2 年度

第 2 次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

春日井市民病院

目 次

第1節	事業概要	1
第2節	数値目標	2
第3節	収支計画	6
第4節	具体的取組の状況	10
第5節	令和2年度各所属の主な取組項目の実施状況	20
第6節	中期経営計画体系別実施結果一覧	24

第1節 事業概要

春日井市民病院は、健全な経営と医療の質の確保について様々な取り組みを実施していくため、平成21年3月に中期経営計画（公立病院改革プラン）を、平成27年3月に第2次中期経営計画を策定し、平成29年3月に改定しました。令和3年3月に第2次中期経営計画を令和4年度まで2年間延長しました。

令和2年度は、地域の基幹病院、また、第二種感染症指定医療機関として、次の取り組みを進め、新型コロナウイルス感染症に適切に対応するとともに医療の質の向上を図りました。

事業面においては、感染症対策として、出入口でのサーモカメラによる検温や全入院患者への抗原検査を実施しました。また、PCR検査機器の導入により検査体制を強化するとともに、通常診療を維持しながら新型コロナウイルス感染症患者の受入れ体制を整備するなど、医療提供体制の維持に努めました。

施設設備面においては、医療の高度化や多様化する医療需要に対応するとともに、より安全な医療を提供するため、令和4年度の開設を目指して、手術台と血管撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室や内視鏡センター、アレルギーセンターを備えた新棟の増築について、当年度は実施設計を完了し、建築工事に着手しました。

また、心臓外科医の赴任に合わせて、心臓外科手術に必要な人工心肺装置などを更新するとともに、検体搬送システムなどの医療機器を導入し、安全で安心な医療の提供に努めたほか、円滑な会計処理のための自動精算機や、外来患者、入院患者に快適に過ごしていただくための無線LAN接続サービスを導入し、患者満足度の向上に努めました。

経営面においては、患者数の大幅な減少に伴い入院・外来収益等が前年度を大きく下回り、純損益は246,283千円の赤字を計上しました。

業務実績においては、一般病床の入院延患者数は149,214人で一般病床利用率は74.1%（対数値目標比-13.9ポイント）、入院患者一人1日当たりの診療収入は65,939円（対数値目標比+6,739円）となりました。また、外来延患者数294,094人で外来患者一人1日当たりの診療収入は16,099円（対数値目標比+2,349円）となりました。

収益的収支においては、医業収益は15,631,231千円（対収支計画比-518,703千円）で、対前年度比1,618,982千円減少しました。一方、医業費用は16,378,075千円（対収支計画比+522,520千円）で、対前年度比33,973千円減少し、医業収支比率は95.4%となり対前年度比で9.7ポイント減少しました。なお、給与費は8,866,157千円（対収支計画比+631,921千円）で、職員給与費対医業収益比率は56.7%（対数値目標比+5.7ポイント）、材料費は3,685,484千円（対収支計画比+370,484千円）で、材料費対医業収益比率は23.6%（対数値目標比+3.1ポイント）となりました。

また、経常収益は17,000,521千円（対収支計画比+119,157千円）、経常費用は17,244,698千円（対収支計画比+536,091千円）で、経常収支比率は98.6%（対数値目標比-2.4ポイント）となりました。

第2節 数値目標

(1) 計画

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) (%)	101.1	103.0	101.4
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100) (%)	—	103.7	102.0
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100) (%)	52.4	51.6	52.2
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100) (%)	19.4	20.4	20.8
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100) (%)	11.9	11.1	11.1
一般病床利用率 (%)	84.0	84.0	85.0
延入院患者数 (一般) (人)	170,937	170,470	171,260
1日当たり外来患者数 (人)	1,300	1,355	1,360
入院患者一人1日 当たり診療収入 (円)	54,865	58,200	58,600
外来患者一人1日 当たり診療収入 (円)	12,800	13,140	13,300
機能評価係数Ⅱ	—	0.0742	0.0750
クリニカルパス適用率 (%)	—	44.0	44.5
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金) (百万円)	7,386	7,404	7,342
資金の不足額 (千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100) (%)	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.5	11.0	10.8
紹介率 (%)	65.5	66.0	66.5
逆紹介率 (%)	70.0	70.0	70.0

※平成28年度から令和2年度までの数値は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の数値

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
100.9	101.2	101.0	99.4	100.6
100.6	101.5	101.9	101.6	101.4
52.1	51.8	51.0	52.7	52.0
20.5	20.5	20.5	21.7	21.2
11.2	11.0	10.8	10.2	10.2
86.0	87.0	88.0	85.0	87.0
173,270	175,770	177,300	171,250	175,290
1,370	1,380	1,400	1,370	1,390
58,800	59,000	59,200	64,700	64,900
13,450	13,600	13,750	15,000	15,200
0.0760	0.0770	0.0780	0.1300	0.1310
45.0	45.5	46.0	47.3	48.0
7,588	7,983	8,388	7,303	7,447
0	0	0	0	0
—	—	—	—	—
10.6	10.4	10.2	10.9	10.8
67.0	67.5	68.0	82.0	82.7
70.0	70.0	70.0	102.0	102.0

(2) 実績

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100)	(%)	103.3	104.4	105.8
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100)	(%)	102.6	102.2	105.7
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100)	(%)	52.3	53.1	50.4
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100)	(%)	20.3	21.3	21.1
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100)	(%)	11.0	10.7	10.5
一般病床利用率	(%)	83.9	84.8	85.4
延入院患者数(一般)	(人)	170,680	172,119	171,967
1日当たり外来患者数	(人)	1,335	1,363	1,396
入院患者一人1日 当たり診療収入	(円)	57,016	58,165	59,778
外来患者一人1日 当たり診療収入	(円)	13,052	13,313	13,398
機能評価係数Ⅱ		0.0579	0.0742	0.0753
クリニカルパス適用率	(%)	42.9	43.4	42.2
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金)	(百万円)	7,420	7,756	8,060
資金の不足額	(千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100)	(%)	—	—	—
平均在院日数	(日)	11.2	11.2	10.9
紹介率	(%)	66.2	77.0	81.3
逆紹介率	(%)	82.0	86.2	97.0

平成30年度	令和元年度	令和2年度
105.5	104.9	98.6
105.3	105.1	95.4
49.9	50.8	56.7
21.2	21.7	23.6
10.4	10.1	11.1
87.0	88.7	74.1
175,334	179,243	149,214
1,415	1,432	1,210
61,244	62,010	65,939
13,911	14,624	16,099
0.1295	0.1340	0.1340
43.7	45.9	46.3
8,398	9,264	8,237
0	0	0
—	—	—
10.9	11.0	11.1
81.4	82.7	80.9
101.5	102.1	105.4

第3節 収支計画

(1) 計画

ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 a	13,748,978	14,648,259	15,394,142
	(1) 診 療 収 益	13,421,978	14,251,960	14,449,191
	入 院 収 益	9,378,458	9,923,854	10,035,719
	外 来 収 益	4,043,520	4,328,106	4,413,472
	(2) そ の 他 医 業 収 益	327,000	396,299	944,951
	2. 医 業 外 収 益 b	1,099,991	1,105,059	724,279
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	404,541
	(2) 国 (県) 補 助 金	21,000	22,691	22,658
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,588	107,998	107,339
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	182,905	190,326	189,741
経 常 収 益 (a+b) (A)	14,848,969	15,753,318	16,118,421	
支 出	1. 医 業 費 用 c	13,798,933	14,486,499	15,093,467
	(1) 給 与 費	7,208,186	7,748,902	8,039,206
	給 料	2,957,000	2,968,870	3,028,248
	退 職 給 付 費	388,100	254,743	363,697
	そ の 他	3,863,086	4,525,289	4,647,261
	(2) 材 料 費	2,661,000	3,066,370	3,196,364
	う ち 薬 品 費	1,408,000	1,599,711	1,663,200
	(3) 経 費	2,651,330	2,473,703	2,719,135
	う ち 委 託 料	1,630,000	1,667,513	1,714,275
	(4) 減 価 償 却 費	1,200,366	1,103,937	1,055,411
	(5) そ の 他	78,051	93,587	83,351
	2. 医 業 外 費 用 d	890,827	814,901	799,421
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	692,794	630,685	629,293
	経 常 費 用 (c+d) (B)	14,689,760	15,301,400	15,892,888
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	159,209	451,918	225,533	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	159,209	451,918	225,533	
累 積 欠 損 金	7,235,479	6,134,025	5,908,492	

イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 (県) 補 助 金	0	2,676	0
	4. そ の 他	0	206,200	200,000
	収 入 計 (A)	187,290	399,620	394,266
支 出	1. 建 設 改 良 費	915,653	1,152,951	933,872
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,063
	3. 投 資	45,000	56,700	64,200
	支 出 計 (B)	1,709,811	1,972,626	1,775,135
差 引 不 足 額 (A)-(B)	△ 1,522,521	△ 1,573,006	△ 1,380,869	

※平成28年度から令和2年度までの収支は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の収支

(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
15,621,210	15,878,177	16,149,934	17,154,424	17,621,951
14,665,916	14,912,286	15,173,910	16,052,975	16,510,425
10,188,276	10,370,430	10,496,160	11,079,875	11,376,321
4,477,640	4,541,856	4,677,750	4,973,100	5,134,104
955,294	965,891	976,024	1,101,449	1,111,526
759,130	744,669	731,430	785,198	788,344
429,187	414,849	402,541	454,355	451,106
22,000	22,000	22,000	25,350	26,000
106,363	106,260	105,849	126,440	126,338
201,580	201,560	201,040	179,053	184,900
16,380,340	16,622,846	16,881,364	17,939,622	18,410,295
15,521,431	15,647,393	15,855,555	16,883,776	17,384,805
8,140,723	8,228,774	8,234,236	9,031,912	9,167,024
3,104,640	3,110,280	3,110,280	3,482,599	3,527,037
375,280	428,040	411,060	355,995	364,122
4,660,803	4,690,454	4,712,896	5,193,318	5,275,865
3,195,000	3,255,000	3,315,000	3,719,000	3,739,000
1,670,000	1,700,000	1,730,000	1,920,000	1,940,000
2,881,277	2,891,798	3,095,319	2,902,743	3,052,018
1,750,000	1,750,000	1,750,000	1,754,947	1,794,313
1,215,726	1,183,097	1,122,250	1,122,983	1,332,188
88,705	88,724	88,750	107,138	94,575
719,526	777,559	853,052	1,162,423	916,200
155,764	141,117	126,181	111,266	99,172
563,762	636,442	726,871	1,051,157	817,028
16,240,957	16,424,952	16,708,607	18,046,199	18,301,005
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
5,769,109	5,571,215	5,398,458	3,857,195	3,747,905

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0	0	0	1,759,200	329,000
197,857	201,519	205,252	211,688	276,002
0	0	0	0	0
200,000	200,000	200,000	0	0
397,857	401,519	405,252	1,970,888	605,002
576,605	525,281	502,890	3,813,247	1,198,502
791,427	806,074	821,010	846,749	977,890
57,022	60,615	61,800	43,200	45,300
1,425,054	1,391,970	1,385,700	4,703,196	2,221,692
△ 1,027,197	△ 990,451	△ 980,448	△ 2,732,308	△ 1,616,690

(2) 実績

ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 a	14,354,269	14,833,508	15,795,383
	(1) 診 療 収 益	13,964,712	14,421,832	14,843,037
	入 院 収 益	9,731,420	10,011,236	10,279,870
	外 来 収 益	4,233,292	4,410,596	4,563,167
	(2) そ の 他 医 業 収 益	389,557	411,676	952,346
	2. 医 業 外 収 益 b	1,131,611	1,129,379	793,280
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	455,153
	(2) 国 (県) 補 助 金	25,951	22,955	22,673
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,660	108,761	106,893
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	209,502	213,619	208,561
経 常 収 益 (a+b) (A)	15,485,880	15,962,887	16,588,663	
支 出	1. 医 業 費 用 c	13,989,783	14,519,100	14,941,745
	(1) 給 与 費	7,501,383	7,874,525	7,962,002
	給 料	2,941,306	2,957,145	2,993,651
	退 職 給 付 費	347,655	386,274	253,703
	そ の 他	4,212,422	4,531,106	4,714,648
	(2) 材 料 費	2,910,333	3,153,739	3,333,769
	う ち 薬 品 費	1,566,688	1,636,063	1,699,233
	(3) 経 費	2,311,116	2,347,440	2,548,054
	う ち 委 託 料	1,582,819	1,585,668	1,652,175
	(4) 減 価 償 却 費	1,194,352	1,067,391	1,029,757
	(5) そ の 他	72,599	76,005	68,163
	2. 医 業 外 費 用 d	996,215	766,991	735,889
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	798,182	582,775	565,761
	経 常 費 用 (c+d) (B)	14,985,998	15,286,091	15,677,634
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	499,882	676,796	911,029	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	10	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 10	0	0
純 損 益 (C)+(F)		499,872	676,796	911,029
累 積 欠 損 金		6,585,943	5,909,147	4,998,118

イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 (県) 補 助 金	8,707	2,676	0
	4. そ の 他	9,800	207,400	206,066
	収 入 計 (A)	205,797	400,820	400,332
支 出	1. 建 設 改 良 費	821,239	1,088,962	778,391
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,062
	3. 投 資	55,200	54,900	48,600
	支 出 計 (B)	1,625,597	1,906,837	1,604,053
差 引 不 足 額 (A)-(B)		△ 1,419,800	△ 1,506,017	△ 1,203,721

(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度
16,512,540	17,250,213	15,631,231
15,539,783	16,189,692	14,649,629
10,738,136	11,123,009	9,914,947
4,801,647	5,066,683	4,734,682
972,757	1,060,521	981,602
805,795	788,645	1,369,290
471,988	464,096	483,187
22,837	25,487	587,740
106,340	106,237	106,310
204,630	192,825	192,053
17,318,335	18,038,858	17,000,521
15,683,737	16,412,048	16,378,075
8,234,951	8,762,507	8,866,157
3,090,258	3,239,093	3,449,338
157,210	316,494	264,853
4,987,483	5,206,920	5,151,966
3,503,795	3,739,736	3,685,484
1,812,423	1,963,040	1,928,900
2,714,563	2,711,156	2,717,350
1,724,419	1,735,806	1,738,255
1,145,086	1,110,095	1,050,232
85,342	88,554	58,852
724,145	787,209	866,623
155,764	141,117	126,181
568,381	646,092	740,442
16,407,882	17,199,257	17,244,698
910,453	839,601	△ 244,177
0	0	0
2,039	1	2,106
△ 2,039	△ 1	△ 2,106
908,414	839,600	△ 246,283
4,089,704	3,250,104	3,496,387

平成30年度	令和元年度	令和2年度
0	0	82,300
197,857	201,519	205,253
0	1,042	116,971
210,500	210,633	209,647
408,357	413,194	614,171
492,189	463,158	1,031,106
791,427	806,074	821,010
43,200	42,900	38,400
1,326,816	1,312,132	1,890,516
△ 918,459	△ 898,938	△ 1,276,345

第4節 具体的取組の状況

取組方針1 地域で果たす医療機能の充実

基本的取組1-1 救急医療の充実

1 高度で専門的な医療提供体制の確保

(1) 脳卒中

医師の配置（脳神経内科医・脳神経外科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人及び当直1人

(2) 心疾患

医師の配置（循環器内科医：6人）

- ・平日昼間：6人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人

2 小児・周産期救急医療提供体制の確保

(1) 小児医療体制の充実

医師の配置（小児科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、日曜日：待機1人
- ・土曜日、祝日：当直1人

(2) 産科医24時間常駐体制の堅持

医師の配置（産婦人科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機又は当直1人

3 休日・平日夜間急病診療所との連携

救急患者や重症患者に対し迅速に対応するため、大型連休（GW、お盆、年末年始）の医師等診療体制の確認をするとともに、診療時に発生した課題や対応について、情報共有を継続して行い連携を図った。

4 消防機関との連携

当院研修医と春日井市消防本部所属の救急職員による救急勉強会を実施したり、当院の医師が講師となり春日井市及び近隣消防機関の職員に対して講義を行ったりした。また、救命救急センターにおいて病院実習を行ったりするなど、研修や実習を通じて救急救命士の知識向上を図り病院前救護活動の技術向上に寄与した。

【救急救命士実習受入状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実習受入人数	59人	59人	61人	65人	63人
実習年間延日数	221日	220日	172日	200日	107日

※対象：春日井市消防本部及び小牧市消防本部

基本的取組 1－2 高度専門医療の提供

【重点取組】 緩和ケア病床の設置

平成29年2月に設置した緩和ケア病床の令和2年度の利用実績は、実患者数15人、病床利用率46%であった。

【重点取組】 心臓病センターの設置

心臓外科医の赴任に合わせて、人工心肺装置など心臓外科手術に必要な医療機器を更新した。心臓病センターの設置に向けて、設置場所などを引き続き検討することとした。

1 脳卒中センターの強化

医師の24時間待機体制を維持し、脳卒中ケアユニット（SCU）6床を運用した。令和2年度の病床利用率は、97.9%であった。

2 高度医療機器の計画的な更新・導入

検体搬送システムなどの医療機器を導入し、安全・安心で高度な専門医療の提供に努めた。

【高度医療機器使用状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
C T 検査件数	43,069件	46,797件	50,441件	52,038件	49,188件
M R I 検査件数	17,325件	17,161件	17,677件	17,155件	15,667件

基本的取組 1－3 地域完結型医療の推進

1 地域医療連携の推進

当院の医師と事務職員が地域の医療機関を訪問し、各診療科の強みや紹介してほしい疾患等をPRするとともに、要望や意見を聴取し対応するなど顔の見える関係のもと、信頼関係の向上に努めた。また、回復期病院を始めとした近隣医療機関や訪問看護ステーションなど医療・介護機関との連携推進のため、病病連携推進委員会、医療連携協議会、訪問看護懇話会及び地域連携研修会において、情報共有及び意見交換を行い、地域医療連携を推進した。

【地域医療連携の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
紹介受入患者数	29,744人	31,716人	32,862人	33,039人	28,512人
高度医療機器共同利用件数	4,337件	4,352件	4,431件	3,989件	3,088件
うちCT利用件数	2,204件	2,274件	2,193件	1,939件	1,449件
うちMRI利用件数	1,247件	1,162件	1,293件	1,156件	926件

【病診連携推進関連研修等の実施状況】

研 修 名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
地域連携研修会	2回	3回	2回	2回
薬薬連携コンソーシアム研修会	4回	2回	2回	2回
がん地域連携パスネットワーク会議	12回	12回	10回	5回
医療関連感染予防対策勉強会	2回	2回	2回	2回
地域連携糖尿病研修会	2回	2回	2回	1回
緩和ケア研修会	1回	1回	1回	1回
感染防止対策カンファレンス	4回	4回	3回	4回
安全管理のための職場研修	2回	2回	2回	2回
がん地域連携パスネットワーク会議	1回	1回	1回	1回
地域の医療機関及び介護サービス事業所との研修会	18回	23回	19回	32回

2 退院支援の充実

さくらカウンターに入院時支援看護師を配置し、入院前から今後予想される課題を把握し、課題に合わせて当該職種が対応し入院後の治療に反映されるよう院内多職種での情報共有に努めている。

また、各病棟に専任の退院支援職員を配置し、入院早期に退院支援カンファレンスを行い、多職種で目標・情報を共有し退院支援計画を立案している。院内多職種で退院に係る課題を共有するため、退院支援カンファレンスで検討した患者だけでなく、支援を必要とする患者に早期に対応できるよう努めている。

3 地域連携パスの推進

がん・大腿骨近位部骨折、脳卒中でリハビリ継続が必要な者に対して、連携する医療機関での治療が継続できるようにしている。連携医療機関との地域連携パス会議においては、現状の把握、課題の共有により患者の治療が効果的に行われるよう検討している。

4 地域包括ケアシステムの構築支援

地域の基幹病院として、医療・介護従事者の資質向上を目指し、地域連携研修会をオンラインで開催した。

5 健康づくり事業等との協働の推進

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年実施していた糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知することを目的とした「世界糖尿病デーin春日井」や春日井市健康管理事業団が主催する単体体操教室でのミニ講演などは実施できなかった。

Web開催となった2020健康救急フェスティバルには、時計や果物のレントゲン写真を使った子ども向けのクイズ動画「透かしてみよう レントゲンの世界」、救命救急センター医師による動画「本当に怖い！！熱中症の話」を提供した。

6 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化

急性期治療を終えて在宅療養する患者が、必要な医療が適切に受けられるよう地域の医療機関と「Tri-netかすがい」を活用し患者の診療情報を共有している。令和2年度末時点で86の医療機関が活用しており、地域連携の強化につながっている。令和2年度は、当院から他の医療機関へ紹介した患者について、受診予定日が近づいたことを紹介先に対して通知するためにシステム改修を行った。令和3年度から運用開始している。

取組方針2 市民の立場に立った医療サービスの提供

基本的取組2-1 安全・安心な医療の提供

【重点取組】 医療の質の向上

日本病院会が推奨する医療の質を評価する指標（QI）を活用し、QI参加病院間の数値の比較をするとともに、当院の各データを基に診療内容や医療安全などにつなげるための検証を実施し、改善が必要なものについては担当部署へ改善を促したりするなど、医療の質の向上に努めた。

1 感染予防対策の徹底

感染予防対策として、病院職員への流行性ウイルス疾患抗体価検査を継続的

に実施した。これにより、ウイルス疾患発症患者の看護にあたる際、抗体を有する職員を優先的に配置することで職員への感染を防いだほか、職員へのインフルエンザワクチン接種を実施した。また、医師、看護師から順に新型コロナウイルスワクチン接種を行った。

新型コロナウイルス感染症対応として、発熱外来を設けて一般患者と隔離して対応したほか、来院者に対しては、出入口でのサーモグラフィカメラでの体温確認、手指消毒用の消毒液の設置などの対策を徹底した。また、入院患者には抗原検査を実施して院内感染の防止を徹底するとともに、面会制限を実施した。面会を希望する親族には、オンラインで面会ができる体制を整えた。

2 医療安全意識の向上

全職員を対象に安全管理のための職場研修を年2回開催し、感染対策のため、オンラインで開催した。職員の安全意識向上に努めるとともに、毎月第3週を安全強化週間と定め、全職員へ安全意識の啓発を行った。また、病棟等で発生した医療事故につながりかねない出来事（インシデント）を報告書としてまとめ、これらの事例を分析し、類似するインシデントの発生や医療事故・医療過誤の発生を未然に防ぐとともに、職員用デジタルサイネージや医局会などを通じ周知を図り医療安全意識の向上に努めた。

3 医療相談の充実

患者・家族からの多様な相談に対し、窓口を「さくらカウンター」に集約し、相談内容に適した担当者に振り分けている。看護相談外来では、摂食嚥下、糖尿病、皮膚排泄ケア、認知症の各分野の認定看護師が対応している。当院ホームページや1階玄関ホールに設置した案内ボードで周知し、多くの患者に利用してもらえるように努めた。

4 チーム医療の推進

NST（栄養サポート）、緩和ケア、感染対策、EOL（人生の最終段階）ケア、糖尿病チームなど、多種職が早期から患者の入院支援が行えるようチーム医療を数多く展開し患者の診療やケアを行った。

5 接遇の向上

患者や来院者へのサービス向上を図るため、内部講師による接遇研修を実施した。

6 薬薬連携の推進

地域の薬局との会議や研修会を適宜開催し、医薬品のリスク管理、注射剤の実技講習を行った。また、手術実施の際に服薬が禁止されている薬の服用を防

ぐため、術前中止薬の患者指導を地域の薬局へ依頼したり、地域の薬局と処方内容や服薬状況等の情報共有を図ったりするなど連携の強化に努めた。

基本的取組 2-2 災害時医療の充実

1 災害拠点病院の機能の拡充

災害時に病院機能を維持するため、井戸設備の修繕に合わせて井戸ろ過装置を設置したことにより継続的な上水供給が可能となった。

取組方針 3 健全な経営の確保

基本的取組 3-1 医療スタッフの確保・育成

【重点取組】 研修体制の充実

研修医にとって当院での初期研修が更に充実したものとなるよう、研修環境や指導医による支援体制の拡充を図るため、研修医の院外講習会への参加を支援するとともに、研修指導医の育成や各所属が実施する院内研修の一元管理に努めた。

1 医療スタッフの確保

医師・看護師等の医療スタッフの確保に努めた結果、後期研修のための専攻医や専攻医から常勤医師として採用するなど職員数は、令和3年4月1日には952人となっている。

【職員の状況】

(4月1日現在)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医師	140人	141人	145人	146人	145人
薬剤師	34人	37人	38人	37人	39人
医療技師	104人	106人	120人	126人	135人
看護職員	534人	550人	565人	571人	590人
行政職員	49人	50人	45人	39人	41人
労務職員	2人	2人	3人	3人	2人
計	863人	886人	916人	922人	952人

※令和2年度以降は、会計年度任用職員制度の開始に伴い、研修医及び専攻医を除き、会計年度任用職員（旧嘱託職員）は除外して集計している。

【研修医の状況】

(4月1日現在)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
研修医	22人	21人	23人	24人	24人
専攻医	11人	7人	13人	21人	20人

2 医療スタッフの質の向上

創傷管理の特定行為研修を1名が修了した。

【認定看護師育成状況】（退職者を除く）

資 格	平成29年度以前	平成30年度	令和元年度	合 計
感 染 管 理	3人			3人
集 中 ケ ア	1人			1人
皮 膚 ・ 排 泄 ケ ア	3人			3人
が ん 性 疼 痛 看 護	3人			3人
摂食・嚥下障害看護	1人	1人		2人
糖 尿 病 看 護	1人			1人
が ん 化 学 療 法 看 護	1人		1人	2人
認 知 症 看 護	1人		1人	2人
救 急 看 護	2人			2人
手 術 看 護	2人			2人
訪 問 看 護	1人			1人
乳 が ん 看 護	1人			1人
慢性呼吸器疾患看護			1人	1人
が ん 放 射 線 療 法 看 護			1人	1人
合 計	20人	1人	4人	25人

【専門看護師育成状況】

	平成29年度以前	合 計
が ん 看 護	2人	2人
感 染 症 看 護	2人	2人
合 計	4人	4人

【特定行為に係る看護師育成状況】

	令和元年度	令和2年度	合 計
薬剤投与（栄養・水分管理） 薬剤投与（精神・神経症状）	1人		1人
創 傷 管 理		1人	1人
合 計	1人	1人	2人

【研究研修費の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
研 究 研 修 費	47,724千円	54,744千円	69,416千円	57,321千円	37,918千円
うち旅費	14,312千円	14,736千円	20,035千円	17,243千円	975千円
うち研究雑費	13,271千円	16,748千円	23,971千円	14,932千円	9,865千円

3 勤務環境の改善

働きやすい職場づくりと生産性向上の実現、過重労働の解消を図ることを目的に、「時間外労働・休日労働に関する協定書」を令和3年3月31日に職員代表と締結した。

基本的取組 3-2 効率的な病院経営の推進

1 経営意識の向上

厚生労働省が定めた1日あたりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、内視鏡検査等）を組み合わせて計算するDPCを採用しており、このDPCデータを用いて他院との比較を行い、分析した結果を職員へ周知するとともに、毎月の経営状況や院長の訓示などを掲載した職員新聞を作成し経営意識の向上に努めた。

2 職員からの業務改善提案

中期経営計画や医療を取り巻く状況等を踏まえ、当院における業務上の改善点や要望を各所属長から聞き取るため、幹部会構成員によるヒアリングを実施した。

3 未収金対策

内容証明郵便による督促状の送付、民事訴訟法に基づく支払督促などを引き続き実施した。過年度未収金は58,534千円に減少した。

【未収金対策の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
過年度未収金額(年度末時点)	70,820千円	67,333千円	65,517千円	60,805千円	58,534千円

【不納欠損処分の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
不納欠損処分額	13,903千円	11,422千円	11,103千円	10,624千円	10,016千円

4 経費の削減

(1) 材料費及び器械備品購入費の削減

薬品や診療材料をより安価に購入することができるよう、薬品は年2回、診療材料は不定期に価格の値引き交渉を実施した。また、診療材料購入委員会及び医療機器物品購入審査委員会を適時開催し、診療材料の適正な在庫管理、器械備品の購入を行った。

・診療材料購入委員会

委員構成：医師5人、技師1人、看護師5人の合計11人

開催回数：10回

- ・医療機器物品購入審査委員会
委員構成：医師7人、技師1人、看護師1人
事務局職員2人の合計11人
開催回数：6回

【材料費等の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
診療材料費	1,514,997千円	1,630,961千円	1,688,073千円	1,770,488千円	1,750,177千円
対医業収益比率	10.2%	10.3%	10.2%	10.3%	11.2%
薬品費	1,636,063千円	1,699,233千円	1,812,423千円	1,963,040千円	1,928,899千円
対医業収益比率	11.0%	10.8%	11.0%	11.4%	12.3%
消耗品費	66,650千円	76,952千円	69,095千円	75,945千円	75,604千円
対医業収益比率	0.4%	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%

(2) 後発医薬品の採用

先発医薬品と同じ効能効果が得られる後発医薬品を優先的に採用し、経費の削減に努めた。

【後発医薬品の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
後発医薬品	317品目	340品目	351品目	361品目	386品目
後発医薬品数量シェア	83.3%	86.1%	89.8%	92.2%	94.8%

5 委託契約の見直し

滅菌業務や病院情報システム運用業務の委託などについて、毎月、委託業者との定例会を開催し、業務の実施状況を把握している。また、施設維持管理・防災業務や診療材料の管理及び物品搬送業務の委託などでは、日々の状況確認を行った。医療機器の保守点検業務委託では、対象機器の見直しを行い、経費削減に努めた。

【委託料の状況】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
委託料	1,585,668千円	1,652,175千円	1,724,419千円	1,735,806千円	1,738,255千円
対医業収益比率	10.7%	10.5%	10.4%	10.1%	11.1%

6 病院広報の充実

広報春日井に当院の医療への取組み等に関する特集記事を掲載するとともに、当院の診療内容や取組等を掲載した地域住民向けの病院新聞「さくら」や、地域の医療機関向けの病院情報誌「Trinity（トリニティ）」を各年3回発行した。

また、市民公開講座を動画配信したり、ホームページ上に「病気を知るチャンネル」を開設したりするなど病院広報の充実に努めた。

第5節 令和2年度各所属の主な取組項目の実施状況

分類	事業名	取組概要	
1 地域で果たす医療機能の充実	(1) 救急医療の充実 モニター管理の充実	初療室だけでは目の届きにくい経過観察室や救急病棟をモニター管理し、不整脈などのバイタル変動の監視の質が向上することで安全性が向上した。研修医・看護師などの現場スタッフが、モニター観察の技術と習慣を習得できた。	
	(2) 高度専門医療の提供 がん医療の充実（ゲノム医療）	当院で治療を行っているがん患者が遺伝子パネル検査とゲノム医療を受けられるように、院内で多職種によるゲノム医療ワーキンググループを立ち上げ、ゲノム医療、遺伝子パネル検査、他施設の情報収集し、がん患者が遺伝子パネル検査を行える体制を構築した。検体の管理、検査までの運用手順を作成し、遺伝カウンセリングを整備した。当院からがんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に8例の症例を紹介し、その結果をキャンサーボードで共有するとともに、各科医師、他の職種に情報提供を行った。	
	(3) 地域完結型医療の推進	高血圧手帳プロジェクト	高血圧手帳を作成し、各診療科（部門）への配布を進めている。
		がん地域連携パスの拡充	消化器内科で、胃がんの内視鏡的治療後の患者にもパスを運用開始した。内科診察室にフローを掲示して医師に呼びかけたため、昨年より運用数が増加した。連携医が参加する「がんパスネットワーク会議」で、当院での取り組みや連携の課題などを共有した。10月のネットワーク会議で、婦人科のがん地域連携パスについて地域の医療機関に説明したが、運用には至らなかった。
		地域緩和ケア連携推進	緩和ケアチームが介入した患者のうち、8割以上の患者が終末期で在宅医療を必要としていた。地域支援者と連携して自宅で安心して療養できるように、退院調整看護師が6月からオンラインも含めて面談を開始した。国立がん研究センターが主催している地域緩和ケア連携調整員フォローアップ研修を受講し、院内でワーキングチームを立ち上げ、地域全体でがん緩和ケアを提供できる体制作りを開始した。
地域医療連携システム改修（外来定期受診案内システムの設計・構築）	3月にシステム改修を完了し、令和3年4月に運用ワーキンググループを立ち上げて、7月から運用を開始している。		
2 市民の立場に立った医療サービスの提供	1階内視鏡洗浄室の改良	施設担当、放射線技師、救急部看護師で協議を実施し、機材を洗浄・消毒する一方通行の動線を作るには水回りの改修で1日以上全検査診療を中断する必要があるため、代わりに、飛沫を防ぐアクリル板を2か所に設置することとした。	
	(1) 安全・安心な医療の提供 KasugaiSkinCareRoom（仮）	アトピー性皮膚炎治療において、デュピクセントを非常に多くの患者に実施した。適応追加のオルミエントをいち早く採用した。美容医学とアトピー性皮膚炎治療の融合を目指し、Qスイッチルビーレーザーの同意書を作成し、自費診療の準備が終了した。ビタミン導入に関しては、契約が困難であり、代替品を検討する。IPLレーザーを導入する予定で、新棟での外来運営に向けて準備を進めている。	
	人生の最終段階における医療体制の構築ACP相談外来開設	早期意思決定の支援を充実させるために、緩和ケアセンターにACP相談外来を開設した。医療者がACP相談の必要性を感じた場合及び患者、家族等から相談依頼があった場合に、ACP相談員が医師とともに支援を開始する。本人の価値観や意向をACPアセスメントシートに記入してACPフォルダーに格納しておき、人生の最終段階に本人を尊重した意思決定に活用する。令和2年度は、946名のうち262名に緩和ケアセンターのACP相談員が介入した。	
緩和ケアセンターの設置	緩和ケアセンターを設置した。症状緩和部門は緩和ケアチーム活動、苦痛のスクリーニング、緩和ケア病床運営、ACPによる意思決定支援の充実を行った。外来部門はがん看護外来の立ち上げ、リンパ浮腫看護外来、ストーマ外来、がん相談を行い、がんの診断時からの支援の充実を図った。地域連携部門は、がん地域連携パス、在宅調整、地域緩和ケア連携調整活動を行った。		

分類	事業名	取組概要
2 市民の立場に立った医療サービスの提供	リンパ浮腫看護外来の充実	リンパ浮腫看護外来の患者数は延べ350名だった。がん治療中及び高齢患者へのコロナウイルス感染拡大を予防するために受診回数を極力減らした結果、前年度と比較すると保険診療、自由診療ともに減少した。 乳がんなどの婦人科系のがんの手術件数は合わせて117件で、そのうち算定対象のリンパ郭清を行ったものは43件だった。 スタッフの知識・技術の向上を図るため、各自オンラインで研修に参加した。
	がん・ナース・チーム (CNT) 活動の充実	愛知県がん診療拠点病院として、がん患者が安心して治療・療養生活を送れるように看護の連携を図り、地域のがん看護の質を向上するため、院内外の看護師にがん看護研修会をオンライン形式で4回実施して、138名が参加した。がん患者の治療に伴う有害事象を少しでも軽減するため、冊子の作成に取り組んだ。 病院内でリソースの活用やチーム医療につなげられるよう、高精度放射線治療センター、外来化学療法センター、せん妄、ゲノム医療等の内容を毎月、CNTニュースとして発行し、がんに関するトピックスや取組みを周知した。看護局部会（緩和ケア・がん看護部会）と協働し、部署のカンファレンス、デスクカンファレンス及び勉強会を実施した。
	新しい透析療法である間欠補液型血液濾過透析 (I-HDF) を普及させる	症例の適性を注視して積極的に適用拡大を推進した。 総HD件数12,592件のうち、I-HDF件数1,982件でI-HDF実施率15.7%となった。 対象者12名程度の想定に対し、年間平均12.7名と目標を達成できた。
	透析担当CEの透析関連業務範囲拡大	令和2年度から透析担当完全二交代制を実施した。 二交代制を確立するために取り組んだ新透析システム機能の有効活用により捻出された余力で時間外業務の削減と新規業務への参入を目指した。しかし、新型コロナウイルスの院内クラスターの影響が大きく、透析シャント手術補助件数は61件で、月10件の目標には及ばなかった。院内クラスター収束後の2月以降は透析シャント手術以外の領域にも参入準備をした。
	「助産師外来」の環境整備 妊婦にとって居心地がよく 保健師とともにサポートし やすい環境	日本看護協会「母子のための地域包括ケア病棟（仮称）モデル事業」に参加して、外来の環境整備に取り組んだ。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、分娩準備教育としての集団指導を中止せざるを得なかったことから、助産師外来の枠で個別に実施した。保健師同席の妊婦もいたが、空間を整備して、周囲を気にすることなく話し合うことができた。
	外来および病棟における公共無線LAN (Wi-fi) 環境の整備	診療棟1階、2階の外来待合及び病棟（西3階を除く）の全エリアに、Wi-Fiのアクセスポイント計98か所を設置し、来院者へのサービス向上に努めた。 その後、感染症病棟にアクセスポイントを2か所追加した。
	e-ラーニング導入により、 感染防止対策加算および抗 菌薬適正使用支援加算の施 設基準上必要な研修会の全 職員の履修を推進する	履修開始時に、文書及び院内メールで、所属長及び全職員に履修方法を周知した。 2月に履修状況を医療関連感染予防対策委員会に報告するとともに、各所属長宛に履修状況一覧を配布し、3月までに履修を完了するよう啓発した。 2月の時点では履修率50%弱であったが、期限までに、抗菌薬研修も含めて、履修率は97%と目標の80%以上を達成できた。
	新採用職員への流行性ウイルス疾患抗体価検査の実施 およびワクチン接種の推奨	今年度は110名に実施した。結果は、健診結果とともに管理課から本人に通知した。
	抗がん剤曝露についての取り組みー職場環境モニタリング (継続)	抗癌剤曝露調査を2回実施した。 令和元年度に調製室及び薬品管理室の床、壁、机などの曝露が判明したことに加えて、化学療法センターの入口床及びトイレ床でも検出されたため、清掃範囲と方法を見直して、その効果を確認しながら、検討を重ねている。

分類	事業名	取組概要
3 健全な経営の確保	研修医・内科専門医に対する外来教育	診察室にインターネット環境が整備されたことで、臨床上の疑問点に対する解決が比較的容易となり、外来研修の指導もスムーズとなった。
	研修医や若手医師の技術指導と学術的な知識向上の充実	救急現場におけるエコー(POCUS)など先端検査機器を用いた技術指導、ファイバー挿管、輪状靭帯穿刺・切開、骨髄路確保などシミュレーターを用いた技術指導、JATEC・JMECCなど標準的な指針に沿った診察指導及び毎朝の救急外来振り返り指導による臨床指導を行い、救急医学会の研修医セッションで発表した。
	初期臨床研修医マッチング、フルマッチ	5月及び9月に臨床研修病院合同説明会に参加した。感染予防のため病院見学を中止して、Web見学会を開催し、12名が参加した。病院見学者数は73名で、研修医応募件数は20名だった。初期臨床研修医は10名の定員を確保できた。
	プログラム責任者及び臨床研修指導医の育成	プログラム責任者の育成のため、外科医師と脳神経内科医師の参加を申し込んだが、落選したため、次年度に再度申し込む予定。指導医講習に、循環器内科医師、産婦人科医師、消化器内科医師の参加を申し込み、循環器内科医師が参加した。
	外部講師による講演会の開催及び研修医の外部講習会への参加支援	院内の外部講師研修として、教育症例カンファレンスを毎月1回実施した。院内講師の研修会等についても、オンラインまたはオンデマンドでの研修を実施し参加者は増加した。対面研修については、開催方法について院内研修委員会にて検討し、会場ごとの参加人数や開催方法について決定した。
	看護師の研修体制の充実	新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた外部研修、外部講師を招いての研修が中止となったため、日本看護協会のオンデマンド研修及びナースングスキル動画研修を実施した。(合計20講座、のべ受講者750名) 5名が愛知県看護協会新人看護職員教育担当者研修を受講した。3名が同実地指導者研修を受講した。
	生化学・免疫検査業務の効率化と迅速報告を目指した検査搬送ラインの構築	11月と1月に生化学分析装置を2台購入し、腫瘍マーカー・ホルモン検査の60分以内報告率が58%から78%に増加した。1月に搬送ラインと生化学分析装置2台、免疫分析装置2台を接続し、午前中の人員配置が3人から2人に減少した。
	病院機能を維持し、効率的な病院経営を推進していくための人材育成	看護管理者教育課程はファーストレベルを3名、セカンドレベルを2名修了した。サードレベルは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、令和3年度に受講する予定。認定看護師分野は、受講希望者を得ることができなかったが、心不全看護分野で「心不全療養指導士」が6名誕生した。クリティカルケア分野は、受講希望者2名から選考する予定。糖尿病看護分野は、学会認定の「糖尿病療養指導士」を増やしていく予定。
医師の事務負担の軽減	医師事務作業補助者(すべて会計年度任用職員)を令和元年度末の11名から令和2年度末20名に増員した。睡眠外来、血管外科、脳神経内科に配置し、医師の事務負担が軽減し、患者の待ち時間が減った。	

分類	事業名	取組概要	
3 健全な経営の確保	(2) 効率的な病院経営の推進	手術室へのオペラマスターの導入	委託業者による細分化キットとピックアップリストの導入で、間接業務が圧縮できた。サプライ業務の患者を担当する看護師を2名から1名に削減して、午前手術や周術期訪問への人材活用が可能となった。手術申し込みルールを作って、器材準備ロスを削減するとともに、人員配置を適正化した。手術室内の5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）及び定期的な棚卸で、診療材料の管理を徹底したことで、スタッフのコスト意識が向上した。
		西病棟エレベーター出入口等への利用者掲示による稼働率向上	事業計画提案者と管理課施設担当で協議を重ねて、費用対効果を検証するために各大型エレベーター（ベッド搬送用側）出入口やボタン付近に現在地と小型エレベーター（お見舞い用側）の場所を簡略的に掲示した。
		医事業務の改善	4月と6月に医事業務委託プロポーザル審査委員会を開催し、7月にプレゼンテーションを実施するとともに、9月に委託契約を締結して、10月から委託事業を開始した。

第6節 中期経営計画体系別実施結果一覧

取組方針	基本的取組	具体的取組	平成30年度の実施結果	令和元年度の実施結果	令和2年度の実施結果	
1 地域で果たす医療機能の充実	(1)救急医療の充実	01 高度で専門的な医療提供体制の確保	○	○	○	
		02 小児・周産期救急医療提供体制の確保	△	△	△	
		03 休日・平日夜間急病診療所との連携	○	○	○	
		04 救急医療の適正受診の啓発	○	○	○	
		05 消防機関との連携	○	○	○	
		【実施済の取組】救命救急センターの設置	—	—	—	
	(2)高度専門医療の提供	【重点取組】緩和ケア病床の設置	—	—	—	
		【重点取組】心臓病センターの設置	△	△	△	
		01 脳卒中センターの強化	△	◎	◎	
		02 高度医療機器の計画的な更新・導入	◎	◎	◎	
		【実施済の取組】放射線治療の充実	—	—	—	
		【実施済の取組】脳卒中センターの強化	△	◎	—	
	(3)地域完結型医療の推進	【実施済の取組】高度医療機器の計画的な更新・導入	—	—	—	
		01 地域医療連携の推進	○	○	○	
		02 退院支援の充実	○	○	○	
		03 地域連携パスの推進	○	○	○	
		04 地域包括ケアシステムの構築支援	○	○	○	
		05 健康づくり事業等との協働の推進	○	○	○	
		06 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	○	○	○	
		07 病床機能の検討	△	△	△	
	【実施済の取組】ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	—	—	—		
	2 市民の立場に立った医療サービスの提供	(1)安全・安心な医療の提供	【重点取組】医療の質の向上	○	○	○
			01 感染予防対策の徹底	○	○	○
			02 医療安全意識の向上	○	○	○
			03 医療相談の充実	○	○	○
			04 チーム医療の推進	○	○	○
			05 接遇の向上	○	○	○
			06 薬薬連携の推進	○	○	○
【実施済の取組】病院機能評価の受審			—	—	—	
(2)災害時医療の充実		01 災害拠点病院の機能の拡充	○	○	○	
		02 災害派遣医療チーム（DMAT）の機能の向上	○	○	○	
		03 災害時にかかる計画などの見直し	△	△	△	
		【実施済の取組】02 災害派遣医療チーム（DMAT）の拡充	—	—	—	

取組方針	基本的取組	具体的取組	平成30年度の実施結果	令和元年度の実施結果	令和2年度の実施結果
3 健全な経営の確保	(1)医療スタッフの確保・育成	【重点取組】研修体制の充実	○	○	○
		01 医療スタッフの確保	○	○	○
		02 医療スタッフの質の向上	○	○	○
		03 勤務環境の改善	○	○	○
		【実施済の取組】研修体制の充実	—	—	—
		【実施済の取組】勤務環境の改善	—	—	—
	(2)効率的な病院経営の推進	01 経営意識の向上	○	○	○
		02 職員からの業務改善提案	○	○	○
		03 未収金対策	○	○	○
		04 経費の削減	○	○	○
		05 委託契約の見直し	○	○	○
		06 病院広報の充実	○	○	○
		【実施済の取組】病院広報の充実	—	—	—

[実施結果] ◎：実施済 ○：実施 △：実施に向けて検討・継続中